

日本比較免疫学会第 33 回学術集会のご案内

学術集会長：中村 修（北里大学海洋生命科学部）
事務局長：筒井 繁行（同上）

日本比較免疫学会第 33 回学術集会を下記の通り、オンライン形式で開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

1. 日時

令和 4 年 8 月 26 日（金）～ 28 日（日）

2. 会場（オンライン形式：開催事務局は北里大学）

集会会場：

参加登録していただいた方には事務局より集会会場 URL をメールにてご連絡致します。

一般講演：

Zoom ウェビナーを利用した口頭発表です。発表時間は 12 分、質疑応答は 3 分を予定しております。

特別講演・受賞者講演・シンポジウム：

Zoom ウェビナーを利用して行います。

役員会：

Zoom ミーティングによるオンライン形式で行います。出席者には事務局より参加 URL をメールにてお知らせいたします。

総会：

Zoom ミーティングによるオンライン形式で行います。参加会員の皆様には事務局より参加 URL をメールにてお知らせいたします。

3. 日程と概要（予定）

・ 8 月 26 日（金）

<午後> 開会

一般講演（口頭発表）

終了後 役員会

・ 8 月 27 日（土）

<午前> 一般講演（口頭発表）

<午後> 総会

古田優秀論文賞受賞者講演

特別講演

渡邊壮一（東京大学大学院 農学生命科学研究科）

「魚類消化管における新奇キチンメッシュ膜による生体防御機構」

岩室祥一（東邦大学理学部）

「百花繚乱にして一騎当千：両生類の生体防御ペプチド」

川畑俊一郎（九州大学大学院 理学研究院 生物科学部門）

「リポ多糖（LPS）を介したセリンプロテアーゼ前駆体の

自己触媒的活性化の分子機構」

・8月28日(日)

<午前> シンポジウム「血管・リンパ管・内皮細胞の比較生物学」

(講演順未定)

山口和人 (山口大学名誉教授)

(タイトル未定)

斉藤絵里奈 (弘前大学大学院 医学系研究科)

「リンパ管の起源を探る

～オーストラリアハイギョを用いたリンパ管の系統発生的解析～」

出口友則 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所)

「リンパ管可視化免疫不全メダカを用いた

がん転移阻害剤スクリーニングを目指した研究」

田井育江 (慶應義塾大学医学部)

(タイトル未定)

閉会

4. 参加費

日本比較免疫学会会員：無料

非会員：2000円 (参加申し込みについては事務局までご連絡ください)

5. 参加申し込み (締切り：2022年7月15日)

別添の参加申込書にご記入のうえ、jadci33@kitasato-u.ac.jpまでメールにてご送付ください。

7. 講演要旨 (締切り：2022年7月15日)

発表される方は、下記の「見本」を参照して、Wordにて講演要旨を作成し、Wordファイル、およびPDFに変換したファイルの両方をお送りください。

注意事項

①A4版縦サイズ、一頁の行数46行、一行の文字数45文字(2段組：23+23文字)程度で作成してください。多少の変更は構いません。

②所属が一行に収まらない場合は改行し、さらに省略名で記入しても結構です。(例：北海道大学→北大、埼玉医科大学→埼玉医大)

③英文氏名、所属が一行に収まらない場合は改行し、さらに省略名で記入しても結構です。

④タイトル、著者名、所属、本文の間に、原則として、それぞれ一行スペースをとってください。

8. 一般講演における発表形式

Zoomウェビナーを用いて、リアルタイム形式で行います。当日のパワーポイント等の不具合に備えて、PDFに変換したファイルを事前に集会事務局までお送りください。

質疑はチャット形式で受け付け、座長が質疑を代読します。

9. その他

- ・録音、録画、撮影等は禁止します。
- ・発表内容が漏洩する可能性がゼロではないことをご認識の上、研究発表に臨んでください。
- ・ご不明な点がありましたら、遠慮なく事務局までお問い合わせください。

連絡先

日本比較免疫学会第 33 回学術集会事務局
〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1
北里大学海洋生命科学部
中村 修 (Tel 042-778-9391)
筒井 繁行 (Tel 042-778-9366)
E-mail : jadci33@kitasato-u.ac.jp

一頁の行数 (標準) : 46 行
一行の文字数 (標準) : 45 文字 (2 段組 : 23+23 文字)

上余白 : 3 cm

演題 : MS明朝・太字・14ポイント

メダカの卵巣における食細胞の貪食物の経時的変化について

著者・所属 : MS明朝・10.5ポイント、氏名の右肩に数字を付け、所属施設の左肩に対応する数字を付ける

比較 太郎¹、免疫 一郎¹、北里 紫三郎²、比佐 美智子³

¹東都医科大学・解剖学教室、²相模原大学・海洋生命科学部、³独立医科大学・医学総合研究所

英語タイトル : Times New Roman・太字・10ポイント

Changes of phagocytic materials by phagocytes in the ovaries of the medaka, *Oryzias latipes*.

著者・所属 (英語) : Times New Roman・10ポイント、氏名の右肩に数字を付け、所属施設の左肩に対応する数字を付ける

Taroh Hikaku¹, Ichiro Men-eki¹, Murasakisaburo Kitazato², Michiko Hisa³

¹Department of Anatomy, Toto Medical University, ²School of Marine Biosciences, Sagamihara University,

³Institute for Medical Sciences, Dokuritsu University School of Medicine

本文 : MS明朝・10~11ポイント、左右2段組；原則として、目的、材料と方法の概略、結果、結論、参考文献に分ける

【目的】

産卵後のメダカ卵巣において、アポトーシスを起こした被覆上皮細胞の貪食、静注した墨粒子の貪食を形態学的に観察することから、食細胞の貪食物の経時的変化を検討した^[1]。

【材料と方法】

メダカ成魚を用い、産卵時から産卵後5日目の卵巣をKarnovsky液で還流固定し、オスミウムで後固定後、エポン包埋、ウラン・鉛で染色、電顕で観察した。また、産卵時より産卵後4日目に、墨コロイド(ペリカンインク)を0.05ml/匹、尾静脈より注入、24時間後に卵巣を採取し、中性ホルマリンで固定、パラフィン包埋、HE染色、光顕で観察した。

【結果】

食細胞によるアポトーシスを起こした被覆上皮細胞の貪食は、産卵後1日目に出現、アポトーシス細胞が消失した産卵後3日目以降は被覆上皮内に観察されなかった。それに対し、食細胞による墨粒子の貪食は、アポトシース細胞を貪食した食細胞が消失した産卵後3日目以後に内膜の支質内に出現した。

結果の項目に図表を入れても構いませんが、
写真等の画質は、印刷後少し悪くなることが
ありますことをご承知おき下さい。

【結論】

産卵後の退縮中の卵巣内食細胞は、産卵直後にはアポトーシス細胞のみを貪食し、墨粒子を貪食しなかった^[2]。その後、卵巣内食細胞の貪食物はアポトーシス細胞から墨粒子へと変化を示した^[3]。

【参考文献】

(必要に応じて記載する・しないを決めてください)

1. Temanski LF, Pitts EP, Rarx BS (1975) J Morphol Res, 53:37-65
2. 中田浩二, 菊山栄一 (2003) 農水産学シリーズ 135・魚類の生体防御系 (渡部 翼 編)、惑星社厚生閣、pp103-113
3. Glassrød B, Nelsen R, Sveinbjørnssen B (1995) Cell Biol, 280:39-48

参考文献は引用順に番号を付け、

本文中の対応する箇所の肩に同じ数字を付す。

文献のタイトルは省略しても構わない。

下余白 : 3 cm

左余白 2 cm

右余白 2 cm